

2019.10.08 10:00-12:00

内閣官房健康・医療戦略室

標準的医療情報システムに関する検討会

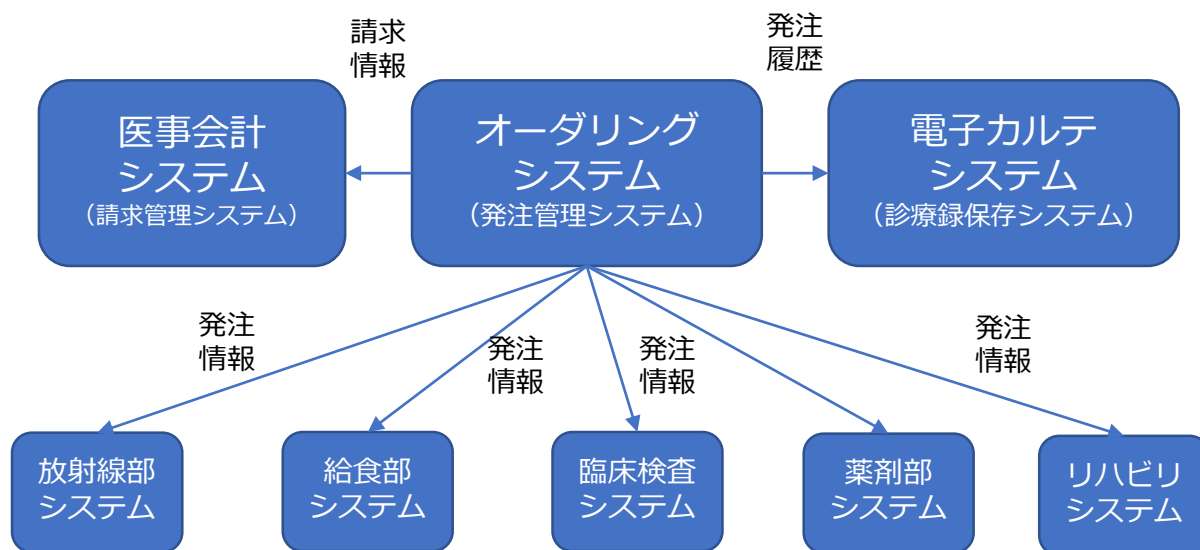
資料 2 - 2

患者を支えるための医療情報システム

社会保険診療報酬支払基金 特別技術顧問
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
矢作尚久

現在の医療情報システムの姿

現在の医療情報システムの基本概念



現在のシステムの構造

現在の医療情報システムは医事会計システムを起点とし、会計情報を伝達するオーダリングシステムを中心に発展してきた。2000年代に診療記録を電子保存するシステムが開発され、更に周辺に診療支援を標榜するシステムが数多く開発されたが、病院のIT投資の多くが**会計と施設内の受発注を目的**とした業務フロー処理に費やさせている状況は変わっていない。DWH等情報を集約し活用する試みはされているが、臨床を支援するようなデータはなく理想的な状況とはほど遠い。

課題

現状の医療情報システムの課題は下記と考える

機械処理可能な範囲が限定的

院内の受発注と請求情報に加えて患者情報としては臨床検査結果等の臨床情報のわずか一部、患者状態の大まかなカテゴライズである病名情報では適切な分析、評価が困難である。

質の評価が反映されにくい

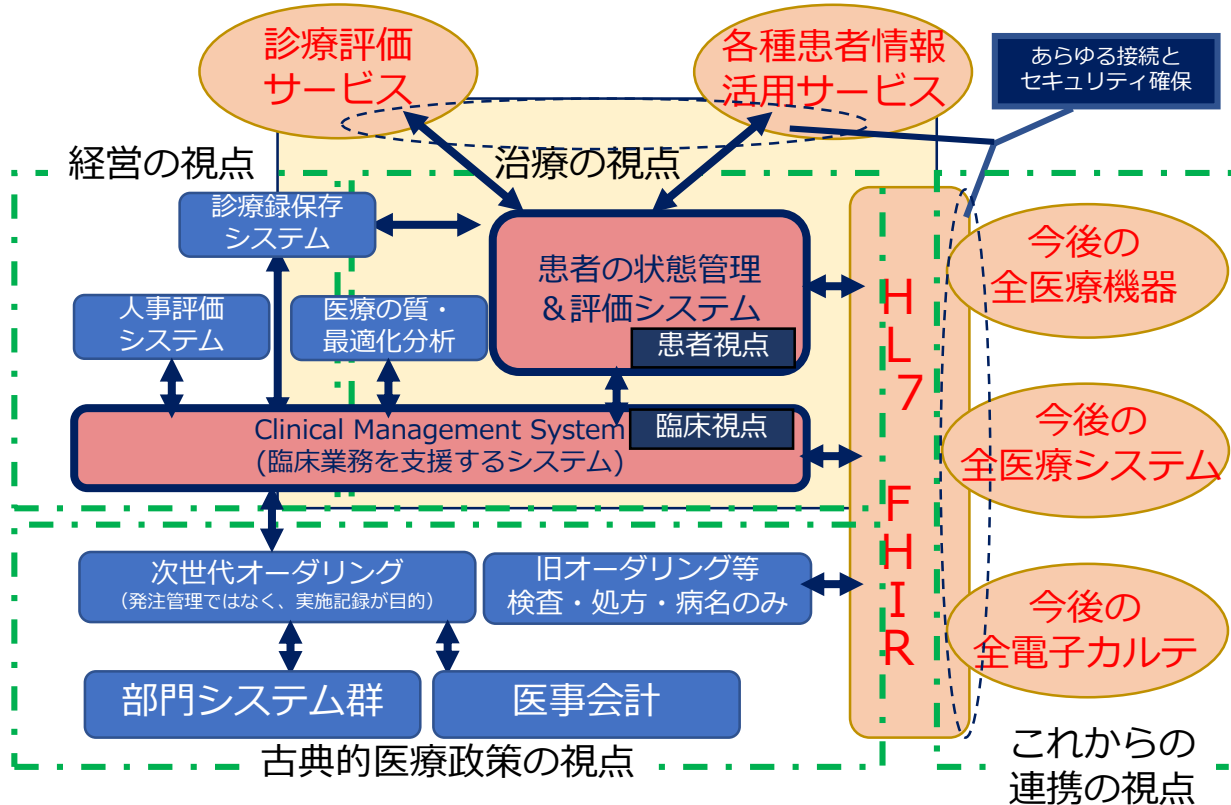
患者状態の情報管理と評価が人手を介して行われている現状では、全てが事後評価になり、臨床現場での質の向上につながりにくい。

重要な指標が出力出来ない

病院経営の最も重要な指標であるべき医療効率も含めた治療成績評価に必要な情報が出力できない。

次世代の医療情報システムの姿

次世代の医療情報システムの基本概念



具体的に実現すべき項目

患者個人単位で治療に要した労力と材料費等の原価、それに応じた状態の改善度合いを時間的変化と共に捕捉できること

= 患者を救うための医療システム

- ・より患者特性に応じた経済性、有効性の高い治療方法の選択
- ・医療従事者の保有するスキルの質分析による人材育成・評価への反映
- ・患者特性別の地域分布、それに応じた地域の医療施設、設備投資評価

また、患者個人の状態情報に生活情報等を加えて充実を図ることで、

- ・臓器提供、意識喪失時の治療方針
- ・データを親族に相続する
- ・第三者との情報共有

等の様々な意思決定を、**医療イベントを契機**に明確化し管理する等の活用も期待できる

次世代のシステムのあるべき構造：目の前の患者を救うシステム設計

→ 患者と現場を支援するシステム

医療情報システムの中核には、**患者の状態管理と評価を行うシステム**が存在している必要がある。これらは患者状態の時間的変化、投入された医療資源、請求情報(収入)を患者個人毎に管理、評価可能な構造として格納し、リアルタイムに臨床現場に情報を提供できることが要件。また、**HL7 FHIRを通じて各サービスとの情報連携性を高める**ことで、患者の特性に応じた治療候補等、より精度の高い情報を取得できることも前提。

※ 基盤技術に、個人の状態に連動した同意に基づく情報流通の制御技術が必須